

広報TSB

第13号

平成30年度 前期

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

新校舎竣工、 新学部届出受理

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学長 山田 宗慶



日頃より本学の教育・研究について御理解と御支援を賜わり感謝申し上げます。また、東日本大震災の翌年から年二回お届けしております本広報TSBも今号で第十三号を数えます。これまでの御愛読に感謝申し上げますとともに今後も何卒よろしく御指導・御鞭撻お願い申し上げます。

今年も手塩にかけた卒業生を三月に送り出し、その感慨に浸る間もなく四月には夢と希望に燃える新入生を迎えました。恒例とは言え、三月、四月は教育に携わる者として大きな節目です。そして六月の体育祭をにぎやかに終えると本学は今年も順調に進んでいると実感されます。

近年、求人・採用とも順調で、特にこの三月の卒業生は就職率が百パーセントを達成しました。管理栄養士、栄養士、保育士などとして採用される傾向は例年通りでしたが、管理栄養士の国家試験の合格率が九十パーセントを超えるという快挙でした。今年の求人もおかげさまで順調ですし、本学でもこれまで同様就職支援に力を入れております。保護者の皆様におかれましても、就職活動に頑張るお子様のより一層の御支援をよろしくお願い致します。

さて、他にうれしいお知らせが二つあります。まず、長年の念願であった新校舎が完成し四月二日に竣工式が行われました。三階建ての建

物で、一階には食堂、売店、Wi-Fi環境、パウダールームなど学生用の厚生施設を充実させ、さらに様々な展示に対応可能なギャラリーも設けました。二階、三階には大講義室、講義室と共有スペースがあります。建設開始とともにそれまでの憩いの場「コア」がなくなり一年間さびしい思いをしていた学生たちが新校舎を本当に喜んで使ってくれています。

今年は新入学生が昨年よりも四十名近くも多いことと、新校舎が建ったことが、キャンパスの印象をより一層明るいものとしてくれています。なお、新校舎の各所において同窓会から寄贈された素晴らしい掛け時計が新しい歴史を刻んでくれています。

次に、これも本学の念願であった美術学部構想(家政学部生活美術学科を美術学部美術表現学科に組織替え)の届出が六月末に文部科学省に受理され、いよいよ平成三十一年四月よりスタートします。東北・北海道の美術系高等教育をリードしてきた本学が一層充実した美術教育を目指します。この美術学部設置に伴い、教職課程についての新課程認定の審査が行われ、さらに学習指導要領の改訂に伴う教職課程の再課程認定などの審査も行われており、教職員一同で対応しております。これら課程認定審査に加えて昨年は厚生労働省関東信越厚生局による管理栄養士養成施設の指導調査が行われ、本学は適格との評価を得ております。

少子化、第三者評価と本学にとっては厳しい状況が続きますが、新校舎建設と新学部届出受理をきっかけに教職員一同一層努力して教育の質の向上を目指していきます。どうか皆さんの一層の御支援をお願い申し上げます。

末筆ですが、本稿の締め切り近くになって、全国、特に西日本では豪雨と未曾有の被害のため多くの死者・行方不明者と被災者が報道されております。犠牲になられた方々の御冥福をお祈りするとともに被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

大学家政学科

短信



家政学科にはこの四月に水谷浩講師、高野弥咲助手の二名が新たに加まりました。また、六月末日付で中野目実里助手が退職し、七月より大岩沙希助手が加わりました。これからの活躍が大いに期待されます。

今年度これまでの家政学科の状況ですが、まず四月四日に入式式があり新入生（服飾文化専攻九名、健康栄養学専攻四十三名）および編入学生（健康栄養学専攻三年次三名）を迎えました。健康栄養学専攻の新入学生中、男子は十一名とこれまでの最多で、管理栄養士という職業の魅力の高校生男子への浸透が伺えます。

今春、大学

六号館が完成したことで学生たちは真新しい教室で授業を受け、広い食堂でのランチタイムを楽しんでいきます。一階のギャラリーには生活美術学科の学生の作品と並んで服飾文



化専攻学生の制作したファッションショーの衣装も展示されています。

健康栄養学専攻昨年度生の管理栄養士国家試験の合格発表が三月末にありましたが、今年の合格率は九二・二%と過去最高（合格者数では過去最高タイ）の成果を収めました。これを弾みにして今年度生のさらなる躍進を図りたいところです。



六月二十三日、七月十四日には恒例のオープンキャンパスが開催され、昨年同時期と同様に参加者を迎える事ができ、本学科での教育内容を紹介する工夫を凝らしたイベントで来訪者には好感を持っていただけでした。

六・七月は教育実習や健康栄養学専攻の隣地実習といった学外実習が佳境を迎えており、学生たちが続々実習先へ赴き、日頃の学習の成果を発揮し、充実した実習を終えた学生たちが顔を輝かせて本学に戻っております。これから学生たちは定期試験を迎え、四年生は課題研究、就職活動、受験勉強や残りの学外実習と続きますが、これらを乗り越えて一層の成長を遂げてくれるものと期待しております。

大学生生活美術学科

短信



日頃から本学家政学部生活美術学科にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年四月から、一年次として四十四名の新入生を迎え恒例のオリエンテーションキャンプを中山平で行いました。その後東京研修旅行があり、国立博物館の常設展や国立新美術館など様々な展覧会などで研修を行いました。

四年生は現在教育実習、就職活動本番を迎えています。自身の将来を見据えながら卒業制作研究に、就職活動に努力してほしいと思います。

「第八十二回河北美術展」では卒業生の横山信人さんが彫刻部門で最高賞の河北賞、清水直土さんが宮城県芸術協会賞、洋画部門では、三年生の織田島三四郎さんが山本壮一郎賞、卒業生の天満秀人さんが宮城県芸術協会賞を受賞し、在学生では二年生の吉田瀬七さんが入選、他卒業生等合わせて十二人の入選者を出しました。

「挨拶状ドットコム二〇一九年度年賀状デザインコンペ」で三年生の早坂明音さんが佳作賞を受賞しました。「第五十四回宮城水彩展一般の部」に二年高橋祐菜さんが新人賞、三年佐藤李菜さん、四年の西脇榛奈さんが、ともに奨励賞を受賞しました。

昨年の学科内コンクールで各画廊賞を受賞し選抜された学生によるグループ展も開催されました。ギャラリー



エチゴ賞受賞者展「大乱闘美術科ブラザース」四年我妻優香さん、菊地泉里さん、三年織田島三四郎さん、小山和奏さん。宮城県美術館県民ギャラリー

リーにて「第四回日本画ゼミナール展」が開催され、学生の力作、卒業生の漫画家相澤郁恵さん達の作品も展示されました。

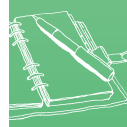
「特別企画蒼龍ワインラベルコンペ」で二年吉田瀬七さんが晩翠画廊賞、「きちゃいなよ、版ゼミ屋さん」ギャラリーエチゴ等。卒業生のグループ展も「第十九回ライフワーク展」がメディアアテークで開催。

地域連携行事としては、「長命館公園さくら祭り」福興シタルマ絵付け」や「仙台ロフト×TSBコラボ企画」などがあり大いに地域と連携し盛況でありました。

来年四月から生活美術学科は、美術学部美術表現学科として進化、発展いたします。六月に届出設置学部として文部科学省ホームページに掲載されました。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

短大生活文化学科

短信



生活文化学科は、平成三十年三月十五日に食物栄養学専攻三十三名、子ども生活専攻三十八名の卒業生を送り出しました。食物栄養学専攻では平成二十六年度から四年連続、子ども生活専攻は平成二十年度から十年間連続して就職率一〇〇%を達成しています。

平成三十年四月、食物栄養学専攻に二十九名、子ども生活専攻に六十一名が入学し、新たな年度が始まりました。勉強だけでなく、ボランティアへの参加など、元気に短大での生活を送っています。

今年度前期の主な行事を紹介いたします。

学科の行事

○四月五日・六日 一年生オリエンテーションキャンプ、二年生研修旅行(土湯温泉、白石城)

食物栄養学専攻

二年生の実習

○六月～十二月 校外実習

小学校、保育所、自衛隊、特別養護老人ホームなどで給食管理実習を行います。

○八月下旬～九月中旬(予定) フードエンタテインメント演習

株式会社江陽グランドホテル、その他食品を扱う事業所への見学も予定しています。

栄養士としての実力アップ、就職試験・編入試験対策に有効な栄養士実力認定試験(十二月)の受験を勧め、受験対策講座を行っています。

一年生の実習

○八月七日・八日 施設見学

(仙台医療センター、セントラルキッチン)

○八月二十日～三十日 施設見学(短大附属すみ保育園)

子ども生活専攻

二年生の実習

○五月二日 マナー講座

浅野純子先生を招き、実習・就職活動に向けて講演していただきました。

○五月二十八日～六月九日、六月二十五日～七月六日 保育所実習Ⅰ、Ⅱ

○七月二十三日～八月三日 施設実習

一年生の実習

○五月二十二日・二十二日 幼稚園・保育所見学実習

(短大附属すみ幼稚園・保育園)

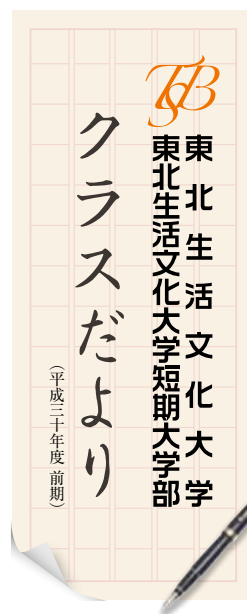
○五月二十二日・二十二日 施設見学実習

(丘の家こどもホーム)

○八月二十八日～九月十日 幼稚園基礎実習Ⅰ

(短大附属すみ幼稚園)





大学服飾文化専攻 1年

早いもので入学式から三ヶ月以上経ちました。一年生は九名のうち七名が家庭科の教員免許状の取得を目指しております。また全員が衣料管理士の資格取得を希望しております。学芸員を希望する学生もあり、全員が高い志をもって日々、勉学に励んでおります。

一人ひとりの将来の目標や困っていることなどを聞くため、個別に面談を行いました。それぞれの個性が短時間の中で見えてきました。最近になって、一時間目の授業を欠席したり遅刻したりする学生が出てきました。もう一度、手綱を引き締めることも必要かもしれません。保護者の皆様からお声掛けくださいます様お願い申し上げます。

大学服飾文化専攻 2年

二年次からは専門科目(服飾文化専攻科目)の学習が本格的に始まります。欠席が大変多く心配な者もありますが、全体的には授業への取り組み方も良く、まずは元気に大学生活を送っています。九月には服飾文化専攻の学習面での大きな行事である東京方面への研修旅行があるので、充実した研修にすべく、事前の準備をしっかり行うようにしたいと思います。

二年次は大学生活にも慣れて、勉学をはじめ様々な点で自分のペースを作りつつある時期ですが、また、「中だるみ」になり、これでやれるのだという感覚から手抜きをしがちになる者も出てくる時期もあるので、教員としても注視していきたいと思っています。

大学服飾文化専攻 3年

三年次になり、各自の希望や進路目標に応じた選択科目の履修が増えました。クラスは落ち着いて学習に取り組んでいる様子ですが、二年次後半に比べると少しペースダウンしているようです。ポートフォリオで掲げた各自の目標の定期的な振り返りが大切であると思います。

七月には授業の学外研修で大江町での青学素材の研修、染色加工企業での工業染色の研修を実施しました。後期には大学での学業の集大成とも言える課題研究Ⅰがスタートいたします。分野別の各研究室に分かれて研究に取り組むこととなります。

大学服飾文化専攻 4年

最近のクラスの雰囲気ですが、就職が早い段階で決まった者、進学者、進路に迷い悩んでいる者など、この時期独特の空気が流れています。これからの一生を考えると、今の悲しみがいつまでも続く訳ありませんが、とかく目の前のことに「喜・憂」しがちなのが私も含めて多くの人間のようにも思います。一人ひとり個性豊かな学生のみなさんに対して、これまで自分の人生から得たものをベースに、精いっぱいアドバイスを卒業式の日まで続けることで、担任としての責務を果たし、クラス十二名と笑顔で卒業式を迎えたいと思う今日この頃です。

大学健康栄養学専攻 1年

健康栄養学専攻は、新入生として四十三名を迎えました。入学式から学事が続く中、一人暮らしを始めた学生にとっては五月の連休で一息つけたのではないのでしょうか。六月には体育祭があり、初めてクラス一丸となる良い機会だったと思います。また、学業の他、部活・学友会にも積極的に参加しているようでした。オープンキャンパスでは先輩のよき補佐役をしているように見受けられました。

七月三十日からは前期試験が始まります。高校より科目・範囲が多いことに改めて気付くと思いますが、ベストを尽くしてもらいたいものです。

大学健康栄養学専攻 2年

二年生になり、授業科目も専門分野の講義、実験、実習が多くなり、学習内容も多岐に亘っております。また、四月はワルカムパーティーの開催準備を行い、新入生を迎えました。五月から実施した担任との個人面談では、毎日勉強する習慣を身につけること、アルバイトで帰りが遅くなる際は事故やトラブル等にご注意するよう、指導いたしました。六月の体育祭では、クラスから多くの学生が実行委員になり、企画運営から装飾、会計などに関わり、体育祭を盛り上げました。クラスは長縄跳び競技で二位になりました。クラス全体で協力し励まし合っている姿を見て、頼もしく感じました。

今後は七月下旬からの前期試験、後期の家政特別講義の学外研修などがあります。健康面に気を付けて、学生生活を送ってほしいと願います。

大学健康栄養学専攻 3年

気がつけば入学して三回目の春を迎え、忙しい毎日を送っています。早い学生では六月に学外実習に行きます。管理栄養士としての知識はもとより、社会人として求められる一般常識も合わせて身につけます。更には国家試験対策講座も始まりました。今のところは週三時間の授業となりますが、まずは勉強する習慣を身につけてもらいたいと思います。また編入生として三名のクラスメイトが増えました。これから四年生に向けてみんなで力を合わせて頑張っていってほしいと思います。

大学健康栄養学専攻 4年

我がクラスの学生たちも、いよいよ最終学年になりました。学業研鑽のほか、卒業後の就職先を決めるべく「就活」においても非常に忙しくなりました。四月早々のガイダンスと定期健康診断に始まり、五月に入ってから病院・保健所等での臨地実習、週六コマほどの国家試験対策セミナーと月ペースで行われる模擬試験、逐次開催される就活セミナーへの参加や就職試験等々、全く落ち着く暇がありません。なかには管理栄養士になることを諦めてしまった学生もありますが、そちらはまたそちらで卒業後の目処を付けるため一生懸命走り回っております。ともあれ、

最後の最後まで、皆の目標が達成できるよう熱い激励をしていきたいと思っております。

大学生生活美術学科 1年

今年四月から、定員を二割も超える四十四名の新入生を迎えました。恒例のオリエンテーションキャンプが行われ、大学になれていない学生達も、東京研修旅行の頃には班別の美術研修等であり馴染んでいた様に感じました。その研修旅行は東京国立博物館の常設展や様々な展覧会鑑賞などで研修を行いました。六月の体育祭では、一年生ならではの若さを発揮し頑張りました。前期も終盤に近づき、後期の授業に向け、各自の目標をしっかりと立て、一年生で履修できる様々な基礎課程をしつかり学んで貰いたいと思います。その他地域連携行事への参加等がありました。

大学生生活美術学科 2年

生活美術学科二年生は学業以外でも各コンペ等に出品、受賞。また、忙しい毎日の中で様々なイベントに積極的に参加するなど大学全体を盛り上げてくれる頼もしい学年です。その他すでに始まっている介護等体験、またインターンシップや美術鑑賞旅行を控えている学生もおります。

新年度スタート時に行った個人面談において新たな目標を窺い知ることができ、個々の活躍が期待される二年かと思われまふ。来年三年次には四コースにそれぞれ分かれ、自身がどういった方向性を見出せるか、この二年生のうちに視野を広めてもらいたいと思っております。

大学生生活美術学科 3年

基礎的科目の履修に費やされた最初の二年と三年次への進級を気にしつつ過ごしたその後の二年があつて、勝ち得た「最も自由な二年」の半分が過ぎようとしています。これまでの二年間で触れることのなかった新しい分野に挑戦する学生たちの前向きな姿に励まされる日々の中、大学の外に発表の場を求め始めた三年生たちの活躍も耳にするようになりました。先週も、佐藤李葉

さんが「第五十四回宮城水彩展」において、奨励賞を受賞したニュースがありました。進級後のこの自由な二年間を皆が有効に使いきること、そして数多くの朗報が、クラス全体にさらなる活力を与えるこの後の二学期間となることを期待しています。

大学生生活美術学科 4年

四年次前期に入り、三十七名の学生が最終学年を迎えました。四年間の集大成として行う卒業研究(卒業制作)も始まっております。七月末の中間提出に向けて、レポートや発表準備等で、皆、忙しく過ごしています。就職活動もいよいよ佳境に入ってきました。いち早く内定が決まった学生もおりますが、大半は引き続き活動中であり、不安や焦りを感じている学生も少なくありません。各自の希望する職種に就けるようサポートしていきたいと思っております。卒業制作と就職活動を無理せずうまく両立し、充実した最終学年を送ってほしいと思います。

短大食物栄養学専攻 1年

食物栄養学専攻では今年第六期生となる新入生を迎えました。入学早々、二泊二日の福島県でのオリエンテーションキャンプでは早速交流を深め、友人を作ったようです。

日々の授業のスケジュールは一〜五校時目まですべて卒業必修科目の日もあるなど、ハードな日程ですが、若さと気力で頑張っています。そのエネルギーは六月の体育祭でも遺憾なく発揮され、短大一年男子チームのバスケットボール優勝への貢献を始め、華々しい活躍ぶりでした。

勿論、本分である勉強には皆一層の力を注いでいますが、ボランティア活動等に積極的に参加する学生も多く、今後の成長が大いに期待されるようです。

短大食物栄養学専攻 2年

卒業学年となった学生たちは学業に向き合いながら、同時に校外実習、そして就職活動と多忙な毎日を送っています。校外実習は、六月中旬より市内小学校を皮切りに特養施設、陸自駐屯地での実習が始まり、現場での貴重な経験と指導を得て

帰って来ました。就職活動では積極的に合同企業ガイダンスや会社説明会に参加し、七月上旬には志望する就職先から複数の内定を得た学生もいます。一方、体育祭では自主的な全員参加により一年振りに食栄二年のクラス枠で出場し、ドッジボールやバスケットボールで変わらぬ団結力と情熱を示していました。ボランティアも精力的にこなす等、日々彼らの成長を頼もしく感じています。

短大子ども生活専攻 1年

将来、保育士や幼稚園教諭になることを目指して入学したピカピカの一年生。男子六名、女子五十六名、計六十二名で子ども生活専攻のスタートを切りました。入学直後に行われたオリエンテーションキャンプでは、同じ志をもつ仲間や先輩たちと親睦を深め、附属のますみ幼稚園・保育園・児童養護施設への見学実習や様々なボランティア活動を通して「保育」の仕事について実践的に学びました。六月に行われた体育祭では、クラス一丸となって全力を尽くし、「総合優勝」という素晴らしい成績をおさめました。今後は、このチームワークを大切に、互いに声をかけ、手を取り合いながら、着実に夢の実現に向かって歩を進めてほしいと願っています。

短大子ども生活専攻 2年

子ども生活専攻二年生は、いよいよ本実習の年を迎えました。五月下旬から保育所実習Ⅰを経験し、六月下旬には保育所実習を終えてきました。学校に戻ってきた学生は、四週間に亘って保育の現場を体感してきたことで、将来の保育者としての自覚と自信がついたように見受けられます。

今後は、七月下旬からの児童福祉施設等で行われる施設実習、また後期に入り、十月からは四週間に亘る幼稚園教育実習を控えております。

忙しい毎日の中で、実習に就職活動に、また授業にと精力的に活躍する学生たちは、今が人生で最も大切な瞬間です。社会人に相応しい力を身に付け、充実した学生生活になるように、また全員しつかり資格を取得し、そろって卒業のゴールに向かって欲しいと願っております。

大学 家政学科 講師

水谷 浩

専門分野: 消費者商品学、家政学、福祉情報学
主な担当科目: キャリア開発I・IV、情報処理I・II、マーケティング論



私たちは、さまざまな商品やサービスを購入し、それらを利・活用(消費)することで暮らしています。

そうしたなか、情報化の進展と相まって『消費者が経済的に効率の良い暮らしを営むためには、計画・実行・評価の各段階において、合理的な意思決定を行うための智慧(消費者力)』が最も有力な暮らしの基盤となりつつあります。

目下のところ、私は「情報社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと」という視点から、一般財団法人日本消費者協会認定「消費生活コンサルタント(第46期)」の資格を活かし、学生たちの消費者力を高めるための教育や研究などに取り組んでいます。

一般的に「消費生活コンサルタント」は知名度が低いため、ご存知の方は少ないと思います。この資格は「消費生活専門相談員(独立行政法人国民生活センター認定)」や「消費生活アドバイザー(一般財団法人日本産業協会)」と並び、消費者庁や国民生活センター、地方自治体の消費生活センター、企業の消費者相談窓口など、消費生活に関わる相談員に不可欠な資格(『消費者安全法第10条第2項3号』)のひとつに位置づけられています。

服飾文化専攻「キャリア開発I」の授業では、一般財団法人日本消費者協会主催「消費者力検定」の受験対策をきっかけにして、情報社会を生きるうえで知っておくべきこと、暮らしに役立つことを学んで欲しいと思っています。

今後は、資格取得の支援にとどまらず、賢い消費行動の実践を促すことにより「社会・企業と消費者の架け橋となりうる人づくり」をめざしていきたいと考えております。

大学 生活美術学科 講師

落合 里麻

専門分野: 木工
主な担当科目: 木工I・II・III、デザイン基礎・立体I・II、卒業研究I・II



私が通っていた大学院は茨城県取手市の利根川の畔にあり、所属していた木工芸研究室は他の研究室に比べて厳しいところでした。大学院のみの研究室であったため、2年間で表現・技術共に一定のレベルに達することが求められ、入学式の翌日から一日中鑿や鉋の刃をひたすら研ぎ、ほんの少しの研ぎ面の歪みも許されませんでした。週5日、1時限目から夜8時までが授業で、夏休みも1ヶ月返上で授業が始まり、同級生といいつも静かに張り合っていました。そのような環境はとても有難く、現在の研究や教育の礎となっています。

現在の研究は、木を用いた作品制作と、江戸時代の乗物・駕籠についての研究、この2つを並行して進めるスタイルで行っています。作品制作では、生活に取り入れて使うことのできる、家具的な要素のある作品を中心に制作しています。仙台に移る前は秋田に5年間在住しており、その頃から地域の美しい風景を家具のデザインに取り入れることを始めました。木という素材は「あたたかい」「ぬくもり」というイメージが一般的ですが、表面処理(塗装)によって全く異なる印象に変えることができます。今後も木の様々な表現方法やデザインについて研究していきたいと思っています。

もう一つの研究は、江戸時代に使われた乗物(駕籠の中でも身分の高い人が用いたもの)と駕籠(一般庶民が用いたもの)の研究です。木部のつくりや材料、装飾やデザインについて、現地調査を中心に進めています。民俗学的な分野に思われがちですが、実際にものを作る立場の視点で行う点が特徴です。最近では震災で壊れた乗物の修復に関して助言を求められることもあり、この研究が当時の文化を後世に残すことにつながることを目標としています。

私の研究

短大 生活文化学科 准教授

黒川 優子

専門分野: 環境科学、魚類の消化生理
主な担当科目: 微生物学、食品衛生学、食品衛生学実験I、食品衛生学実験II、環境学



私はこれまでに教育・研究機関および一般企業において、水系を中心に微生物を含めた生物の生理生態、環境科学に関して、主に以下の研究に取り組んでまいりました。

1. 水中の細菌による環境汚染物質の分解: 河川や沿岸域をフィールドとして水環境中の有機リン化合物や有機スズ化合物の濃度の把握と水中の細菌による分解を調べ、分解菌の探索を行った結果、数種の化学物質の分解菌を単離し、分解の特徴や分解酵素の性質を明らかにしました。
2. 水環境中における環境ホルモンの検索: 河川、沿岸海水および下水処理水について、培養細胞等を用い環境ホルモンのスクリーニングを行いました。その結果、下水処理場放流口付近で採取した試水中には高濃度の女性ホルモン様物質が含まれることを明らかにしました。
3. 仔稚魚の消化酵素活性に関する研究: 養殖対象の魚類および甲殻類の仔稚魚期や幼生期において、餌料生物の適切な選択や餌料転換期、さらに給餌回数や給餌時間帯などを明らかにするために、①成育にともなう消化酵素活性の変化、②消化酵素活性の日内変動、③消化系の発達と消化酵素活性との関係についての組織学的アプローチ、④健康状態と消化酵素活性との関係について調べました。
4. 環境教育・栄養教育・食育: 子どもたちに海の生き物、生息環境、魚食の長所について知ってもらうことを目的として、小学生と保護者を対象に「子どもサイエンス体験」を開催し、実習指導を行ってきました。

今後は、食物の安全性や食物をとりまく環境に着目し、講義・実習を通して、知ることの喜び、解き明かしていく過程の楽しさ・厳しさを学生の皆さんに伝え、自ら問題を解決できる人材、他人への思いやりを大切にする人材を育成し、社会に送り出すよう尽力したいと思っています。

短大 生活文化学科 講師

佐藤 和貴

専門分野: 音楽教育、ピアノ教育
主な担当科目: 音楽I・II、ピアノI・II、保育内容(表現I・II)



中学校ではソフトテニス部に入部しました。ピアノは3歳から続けていましたが、部活に本格的に打ち込むようになると、練習時間は減りレッスンも休みがちになりました。当時のピアノの先生は、久しぶりに来たと思えばさっぱり練習してこない私にいつもと変わらず丁寧に指導してくださいました。これは後から聞いた話ですが、先生は母に「このままではレッスン代ももたないのではどうでしょうか?」と尋ねたそうですが、母は「本人が何も言っていないのでこれまで通りをお願いします」と話したそうです。

子どもが音楽と出会い、学び成長していく環境において、指導者はどのような働きかけを行うことが理想的なのでしょう。多くの同様な場面で、指導者や親は、なぜ練習してこないのか、もっと頑張りたい、月謝がもたない、練習しないなら辞めなさいといった言葉かけをする事例も少なくないと感じています。

日本では幼稚園から中学校まで全ての園児・児童・生徒が音楽の教育を受けます。そこで行われている音楽教育の内容は、幼児期で最も重視されるべき主体性を育むところから始まっています。しかし年齢が上がるにつれて、部活動や音楽行事では生徒指導や統制的な側面が強調され、音楽教育のあるべき本来の目的が指導者からも忘れられているように感じられます。～やりなさい、～しなさいの発想で音楽が扱われる場面が増えてくるのです。

音楽においては、いかに強制ではない形で、子どもと音楽を肯定的な感情で結びつけるかが最も重要な観点の一つであると考えています。保育者が子どもたちと一緒に歌うとき、音楽の活動を行うとき、どのような視点で子どもたちと関われば良いのか。子どもと音楽との間に良い架け橋を作ることができる保育者を目指して、学生たちと一緒に考えていきたいと思っています。

美術学部設置



平成三十年六月二十九日文学部科学省のホームページに、大学の学部等の平成三十一年度設置届出一覧として本学美術学部美術表現学科が掲載され、三十日の河北新報にも掲載されました。

地域社会の要請に答え、建学の精神である文化を創造する人材育成という大目標を深化させ、学園として地域に貢献してゆく進化のために美術学部を設置することができました。

新美術学部美術表現学科は、三十一年四月開設、五十名定員。

☆デザイン分野の充実のため、一昨年からデザイン分野の教員を二人採用しさらに来年度もアニメーションの教員を採用します。

☆地域との連携を行う科目「地域創生演習」を設け、地域に貢献できる人材の育成を図ります。

☆美術・工芸コース、デザイン・メディア芸術コースの二コースを設け、細分化し、基礎と応用を充実して展開します。

新しく誕生する美術学部美術表現学科にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

服飾文化専攻二コース制

平成三十年度入学生からコース制を導入いたしました。服飾文化専攻では「服飾と生活に関して科学と文化の両面から追求し、服飾産業の発展と生活文化の向上に寄与する人材の育成」を教育の目的とし、服飾産業に関する総合的・専門的教育と、衣料管理士の養成を教育の主軸において展開してまいりました。コースの内容は、人を魅了する「服」を中心とした視点でとらえ、産業の将来を多角的に見通し、新たなファッションを発信するビジネスのプロフェッショナルを目指す「服飾ビジネスコース」と、着用する「人」を中心とした視点でとらえ、人間を中心とした衣

環境（快適性・安全性・社会性等）において確かなものを見極め、新たな衣生活を創造するプロフェッショナルを目指す「服飾生活コース」です。コース制の導入により一、二年次で家政学と被服学の基礎を学び、三年次よりコースに分かれ、各自の進路目標に応じてさらに専門的に学ぶことが出来るようになります。



大学生協食堂「ココカフェ」&購買「パレ」

今年四月より運用開始した六号館の一階は、福利厚生施設がメインとなっています。大学生協運営による食堂「ココカフェ」と購買「パレ」が入っており、学生ホールには、Wi-Fi環境も整っているの、ランチタイムのみならず、学生の憩いの場となっているようです。



人事異動

退職の教職員

大学准教授 伊澤 華子
大学講師 小野寺 美和
大学助手 佐藤 絵美
大学助手 中野目 実里
短大講師 安部 日珠沙
短大特任教授 齋藤 紀行
短大助手 松本 有紀子
短大助手 乗田 ふみ
大学短大 事務部長 白鳥 彦

新任の教職員

大学講師 水谷 浩
大学講師 落合 里麻
大学助手 高野 弥咲
大学助手 大岩 沙希
短大准教授 黒川 優子
短大講師 佐藤 和貴
短大講師 盛下 真優子
短大副手 菅原 麻理
大学短大 事務部長 白崎 隆典

事務職員紹介



企画課 白崎 隆典

四月一日から企画課にお世話になっている白崎です。私が担当している主な業務は、各種会議の連絡調整及び議事録の作成、大学・短大の規程の改廃、教職員対象の研修会の企画・実施、その他各課の所掌に属さない業務です。

初めての業務もありますので、教員並びに職員の皆様の協力を得ながら業務を処理しております。あまり学生の皆さんに接する業務ではありませんが、楽しい学生生活が送れるよう側面から支援していきたいと思っています。

PHOTO ALBUM

(平成30年度前期)



平成30年度大学・短大入学式

「平成30年度大学・短大入学式」を挙行了しました。桜も咲き始め、風も穏やかで、絶好の入学式日和となりました。



服飾文化専攻「浴衣デイ」

7月19日(木)、服飾文化専攻「浴衣デイ」を実施。服飾文化専攻の学生たちが「被服平面造形実習I」で作った浴衣を着て登校しました。



三島学園香風会学業優秀者決定通知交付式

三島学園独自の奨学金で、学業に精励し態度と志向性が学生にふさわしい在学生(大学2～4年生、短大2年生)に対して、支給しています。



短大子ども生活専攻「造形I」

構内でフロッタージュ技法(表面がデコボコしたモノの上に紙を置き、色鉛筆でこすり、カタチを写し取る)により集めた素材を、造形室に戻り、切り取って、コラージュ技法で、見たこともないモンスターを作りました。



ママに「ありがとう」を伝えるイベント「ハハノワ」出展

本学学生たちは、遊びのエリアにおいて、「割れない不思議なシャボン玉」コーナーを実施。開始早々、多くの子どもたちにシャボン玉で遊んでもらいました。



体育祭

6月9日(土)、体育祭が開催されました。今年のテーマは、「クセがすごい～走って・投げて・転んで・調子乗っちゃって☆一足早い真夏の大会運動会!」。



さかな丸ごとと食育プログラム

短大食物栄養学専攻において、虹の丘児童センターの小中学生を招き、「さかな丸ごとと食育プログラム～丸ごとイカ料理を作って食べよう～」を開催しました。



学都仙台コンソーシアム平成30年度サテライトキャンパス公開講座

本学の講座は、生活美術学科森敏美教授による「アジア民族顔の起源ー日本人のゲノム解析から伺える東洋人の顔立ちー」を実施しました。



仙台ロフト×TSBコラボ企画

仙台駅前にある仙台ロフトさんと本学とのコラボ企画。「3・1・2弁当箱法を使って夏を元気に過ごそう」と「アイリンブループロジェクト」を実施しました。

就職支援センターから

◎就職活動は自己分析から。早目の準備を。

就活スケジュール: 3月1日広報活動開始、8月1日採用選考活動、10月1日以降内定

本学の平成30年3月大学・短大卒業生の就職決定率は100%でした。これまでに大学・短大揃ってこの状況になったのは初めての事です。今年度も良い結果になるよう就職支援をまいります。

さて、就職活動は短期間での選択でもあり早目の準備が必要です。いざとなってから悩むことのないよう自分の希望、適性をしっかり把握し、保護者の意向もふまえ、就職相談室に頻繁に顔を出して求人票を丁寧に確認すること、また、インターンシップによる職場体験、企業HPや合同企業説明会等に積極的に参加した上で、自分に合う会社に応募することが求められます。

今年度も、売り手市場と云われる就職採用状況にはありますが、この雰囲気になれないためにも、より自己分析をしっかり行うことが大切です。自己分析は、自分の仕事選びの軸を明確にするため、そして自分のことを他人にわかりやすく説明するために重要です。なぜなら、これがエントリーシートや面接試験など、多くの場面において大切になってくるからです。

自己分析は就活のスタートです。

東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結び懸け橋となることを願って命名しました。

広報TSB 第13号

〔発行〕平成30年(2018年)8月1日

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2

TEL 022-272-7520 FAX 022-301-5602

ホームページ <https://www.mishima.ac.jp/tsb/>

Facebook <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

Twitter https://twitter.com/mishima_tsb